

# トラベルヘルパー需要増

## 一緒にお出掛け・介護の専門家

高齢者をはじめサポートがという身近なお出掛けから必要な人の外出を支援する介護技術の専門家「トラベルヘルパー」の活躍で、高齢者の旅の選択肢が広がっている。2009年に始まった認定資格を持つヘルパーは年々増え、現在は500人以上に。今年から大手旅行会社も参入するなど利便性も向上している。「近所の墓参りに行きたい」という身近なお出掛けから、孫の結婚式に出たい。もう一度、あの思い出の場所に。さん(60)は85歳だった父板橋昌利さんと10年、鹿児島を訪れた。板橋さんは旧日本軍の元特攻隊員。「沖縄に散った仲間が最期に目にした薩摩富士(開聞岳)を、自分も一度、見ておきたい」と話していた。気が晴らして、車いす生活を余儀なくされていた。



家族らと知覧特攻平和会館を訪れた板橋昌利さん(手前)  
=2010年、鹿児島県南九州市

## 大手旅行会社も参入 気晴らしや話し相手にも

山口さんはヘルパーの「あ・える」ネットワークを取り、担当ヘルパーが車いすでも搭乗便を手配。板橋さんと同じ空から開聞岳現地では自身が酔いがきか史料館にいたのも見つけ、山口さんは「トラベルヘルパー」を知って、呼ぶ掛ける。

大手のJTB月、首都圏発の旅行会社の紹介を始めた。旅行先を案内するが、いれればどこへもと語る。

同協会の連絡先  
415) 60080

## 葬儀 解約に高額手数料

わなかつたので契約分の30万円は使えない」と言われたケースもあった。葬儀のスタイルと合っているか、確認しておくことが大事」と助言する。